

A—39 種子，花卉，花粉，葉の遊離糖の分布， 花卉植物について

熊本女大文家政 松下アヤコ

1. 植物体の各器官（種子，花卉，花粉，葉）中の遊離糖の分布状況を明らかにし，蔬菜各器官中の遊離糖の分布状況とその呈味との関係を明らかにする。

2. ペーパークロマトグラフィーを実施してその目的を達した。展開溶媒はn-ブタノール：氷酢酸：水（4：1：2）とn-ブタノール：ピリジン：水（3：2：1.5）の2種を使用し，発色試薬はベンチジントリクロル酢酸のアルコール溶液とクロログルシノールトリクロル酢酸のアルコール溶液の二種を使用した。展開は一次元上昇多重展開法（三重）を用い，遊離糖の同定方法は，標準糖と試料のスポットとの同時クロマトによる Rf 値の一致，発色剤による発色の状況などによる外，遊離糖の構成糖を調べることにより行なった。

3. 種子中にはシュクロースの分布が最も広くラフィノースとグルコースの分布が，これにつぎ，その他スタキオースとマルトースの存在もみとめられた。花卉，花粉中の遊離糖の分布は概して類似していてシュクロースとグルコースの2種かまたはシュクロース，グルコース，フラクトースの3種が共存し，スタキオース，ラフィノースの存在はみとめられなかった。葉中にはシュクロースとグルコースの2種が共存する場合が最も多かった。